

【来賓挨拶】倉野直紀・一般財団法人全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会事務局長

(2022年ブラジル大会の女子マウンテンバイククロスカントリーで銀メダルを獲得した早瀬久美選手、卓球女子ダブルスで銅メダルを獲得した亀澤里穂選手も登壇)

今までデフリンピックという言葉をお聞きになったことがない方が多いと思います。いま投影された映像でも音がなく、音楽もないことに驚かれたのではないのでしょうか。私たち聞こえない者は、この音のない世界で生きています。早瀬さん、亀澤さんも、この聞こえない世界で戦っているわけです。

デフリンピックは100年近い歴史があるにもかかわらず、日本ではまだ一度も開催をされていません。ようやく2025年に、ここ東京で開催することが決まっております。その運営を私ども聞こえない当事者を中心として、聞こえる方々にもご協力をいただきながら準備を進めているところです。

私たちは、この大会をきっかけに、聞こえない子供たち、聞こえない選手たちに夢を与えたいと考えています。社会の中には、たくさんの聞こえない子供たちがいます。デフリンピックを知らない子供たちに夢を与え、聞こえる人と聞こえない人が一緒に暮らすことができる共生社会の実現を目指しています。

私は聞こえません。聞こえる方が多い社会で、私たちとの間にコミュニケーションのバリアがあります。でも、このように手話通訳者を通して、皆さんと対話することができるわけです。このような社会が来ています。聞こえる人も聞こえない人も、ともに暮らしやすい社会になるはずです。

この大会を、今日のテーマ「未来につなぐ」ようにしていきたい。そのためにも、今日いらっしゃる皆様方に、ぜひともデフアスリート、私たちが準備をしているデフリンピックへの応援をたくさんの方にしていただければうれしく思っております。

では次に、アスリートの亀澤さん、早瀬さんから、アスリートとしての思いを一言お願いしたいと思います。

亀澤 こんにちは。デフ卓球の亀澤里穂と申します。本日は、たくさんのデフアスリートにも来ていただいています。デフリンピックに出場したのは4度。デフリンピックの魅力は、デフアスリートたちが今まで積み重ねてきた努力、経験を発揮する場所、各国の選手と交流ができる場所であることだと思っています。しかし、デフリンピックの知名度が、オリンピックやパラリンピックと比べると、まだまだ低い状況にあります。そうした中で、デフアスリートたちは、東京デフリンピックに向けて、メダルを獲得できるように日々練習に励んでいます。東京2025デフリンピックは、皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っていますので、応援の力が必要です。よろしくお願ひいたします。

早瀬 こんにちは。早瀬久美と申します。私は自転車競技をしております。デフリンピックを初めて聞かれる方も多いでしょうし、デフリンピックを知ったけれども、どうやって応援

をしたらいいのか分からない方も多くいらっしゃると思います。

今まで、私はいろんな方とお会いをして、デフリンピックを知ったことをきっかけに、自分の世界が広がったと言われることがあります。ですから、皆さんのいろいろな力、小さな力かもしれませんが、それを結集してください。今いる皆さんが何かをやることから、それをきっかけに次々につながっていく。デフリンピック100年目から、さらに次の100年を見据えて何かを残していく。そういうきっかけづくりを私たちができるのかと思うと、わくわくしてきます。今日はありがとうございました。